

# 塩竈市立病院事業会計

## I 予算の執行状況

### 1 収益的収入及び支出

#### 1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予算現額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決算額	予算額に比べ決算額の増減	執行率
病院事業収益	3,043,807,000	0	2,956,130,540	△87,676,460	97.11
医業収益	2,757,097,000	0	2,635,581,698	△121,515,302	95.59
医業外収益	285,710,000	0	320,531,461	34,821,461	112.18
特別利益	1,000,000	0	17,381	△982,619	1.73

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

#### 2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
病院事業費用	3,040,219,000	2,941,571,031	0	98,647,969	96.75
医業費用	2,964,645,000	2,881,086,572	0	83,558,428	97.18
医業外費用	73,434,000	58,344,472	0	15,089,528	79.45
特別損失	2,140,000	2,139,987	0	13	99.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

#### ① 収益的収入

予算現額3,043,807,000円に対し、決算額2,956,130,540円で、執行率97.11%となっている。

#### ② 収益的支出

予算現額3,040,219,000円に対し、決算額2,941,571,031円で、執行率96.75%となり、98,647,969円の不用額が生じ決算されている。

[主な不用額]

- ・給与費 15,888千円 (報酬14,157千円)
- ・材料費 42,592千円 (薬品費25,816千円、給食材料費10,526千円)
- ・経費 19,355千円 (修繕費5,853千円、委託料4,309千円)
- ・雑損失 14,558千円 (その他雑損失14,558千円)

## 2 資本的収入及び支出

### 1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	412,484,000	0	327,040,000	△85,444,000	79.28
他会計補助金	38,484,000	0	38,484,000	0	100.00
企 業 債	374,000,000	0	286,700,000	△87,300,000	76.65
国庫補助金	0	0	1,856,000	1,856,000	-

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

### 2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	444,952,000	0	356,190,230	0	88,761,770	80.05
建設改良費	378,400,000	0	289,638,740	0	88,761,260	76.54
企業債償還金	66,552,000	0	66,551,490	0	510	99.99

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

#### ① 資本的収入

予算現額 412,484,000 円に対し、決算額 327,040,000 円で、執行率 79.28%となっている。

#### ② 資本的支出

予算現額 444,952,000 円に対し、決算額 356,190,230 円で、執行率 80.05%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 283,693,240 円、施設改良費として 5,945,500 円である。施設購入費の内訳は、病院情報システム構築 (契約額 186,961,500 円)、PACS リニューアルおよび RIS システム購入 (契約額 47,850,000 円)、生理検査システム購入 (契約額 19,690,000 円) 等、施設改良費の内訳は、GHP (H-3 系統) 改修工事 (契約額 4,950,000 円)、電子カルテシステム導入に伴う電気工事 (契約額 995,500 円) である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 29,150,230 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 26,305,340 円、過年度損益勘定留保資金 2,844,890 円をもって補っている。

## II 経営成績

平成29年度から令和3年度までの経営成績は、次表のとおりで、消費税を除いた本年度の収益的収支差引額は11,037,989円の純利益を生じて決算された。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

### 1 総収益と総費用

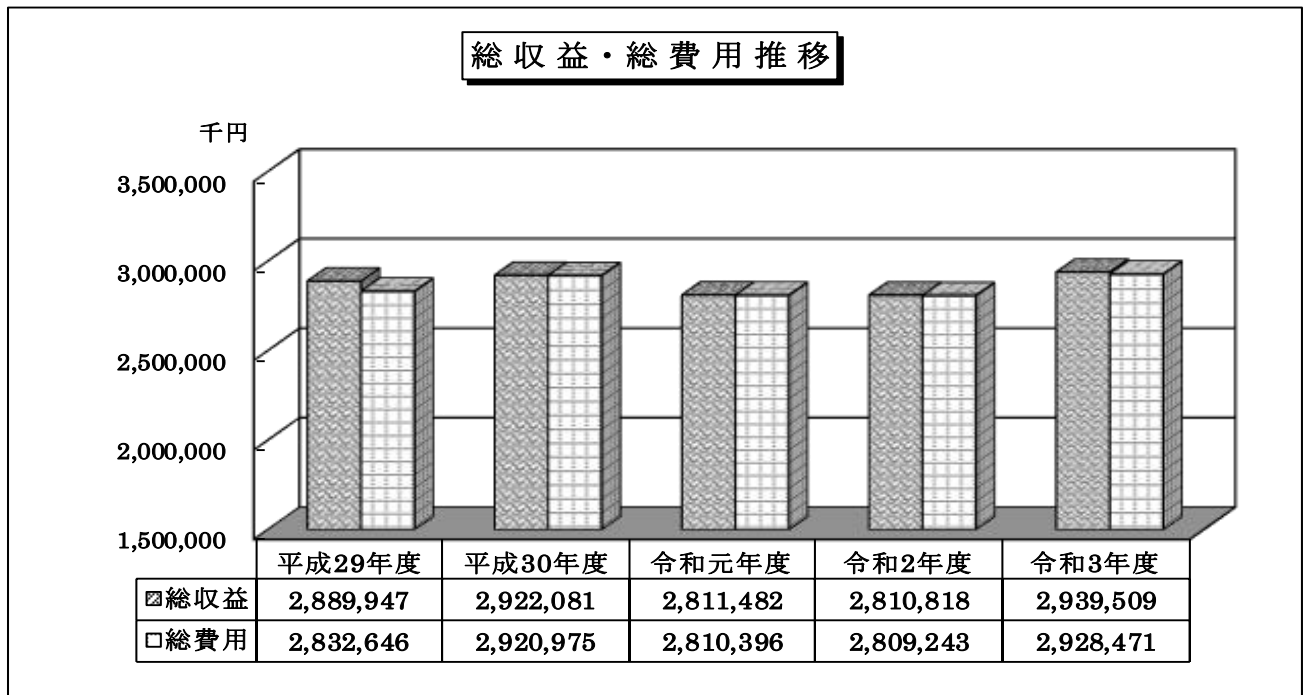
#### 総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成29年度	2,889,947,432	100.0	2,832,645,669	100.0	57,301,763	102.0
平成30年度	2,922,080,739	101.1	2,920,975,001	103.1	1,105,738	100.0
令和元年度	2,811,482,096	97.3	2,810,395,932	99.2	1,086,164	100.0
令和2年度	2,810,817,513	97.3	2,809,243,347	99.2	1,574,166	100.1
令和3年度	2,939,508,653	101.7	2,928,470,664	103.4	11,037,989	100.4

(注) すう勢比率は平成29年度を基準年度とする。

また、平成29年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成29年度を比率100としたすう勢比率で見ると、総収益は前年度と比べ4.4ポイント上回った101.7%、総費用は4.2ポイント上回った103.4%となった。

また、収支比率は前年度と比べ0.3ポイント上回った100.4%となり、収支差引では前年度より9,463,823円増の11,037,989円の純利益となった。

## 2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

### 収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		令 和 3 年 度		令 和 2 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,559,822,263	53.1	1,496,959,384	53.3	62,862,879	4.2
	外 来 収 益	707,150,955	24.1	605,774,993	21.6	101,375,962	16.7
	そ の 他 医 業 収 益	353,584,852	12.0	331,581,534	11.8	22,003,318	6.6
	計	2,620,558,070	89.1	2,434,315,911	86.6	186,242,159	7.7
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	144,564,000	4.9	143,598,000	5.1	966,000	0.7
	他 会 計 補 助 金	70,054,000	2.4	116,719,000	4.2	△46,665,000	△40.0
	患 者 外 給 食 収 益	662,824	0.0	549,504	0.0	113,320	20.6
	そ の 他 医 業 外 収 益	15,620,381	0.5	13,586,531	0.5	2,033,850	15.0
	県 補 助 金	13,351,000	0.5	6,783,142	0.2	6,567,858	96.8
	長 期 前 受 金 戻 入	66,382,577	2.3	68,099,133	2.4	△1,716,556	△2.5
	国 庫 補 助 金	8,300,000	0.3	26,698,000	0.9	△18,398,000	△68.9
	計	318,934,782	10.8	376,033,310	13.4	△57,098,528	△15.2
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	15,801	0.0	468,292	0.0	△452,491	△96.6
	他 会 計 補 助 金	0	-	0	-	0	-
	計	15,801	0.0	468,292	0.0	△452,491	△96.6
合 計		2,939,508,653	100.0	2,810,817,513	100.0	128,691,140	4.6

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で128,691,140円の増収となっている。

これは、医業外収益が57,098,528円(15.2%)減収となったが、医業収益が186,242,159円(7.7%)と大幅に増収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

### 年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	令和3年度	令和2年度	対前年度比率	令和元年度	平成30年度	平成29年度
年延入院患者数	42,900	41,891	102.4	44,721	47,640	50,170
年延外来患者数	58,169	55,144	105.5	59,016	58,551	57,632
合 計	101,069	97,035	104.2	103,737	106,191	107,802

本年度の年延入院患者数は42,900人、一日平均117.5人で、前年度より延患者数1,009人、一日平均2.7人の増加。年延外来患者数は58,169人、一日平均240.4人で前年度より延患者数3,025人、一日平均13.5人の増加となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	令和3年度	令和2年度	対前年度比較増減	令和2年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	22,430	21,670	760	27,259
〃 入院収入 (円)	36,359	35,735	624	49,682
〃 外来収入 (円)	12,157	10,985	1,172	14,284
外来入院患者比率 (%)	135.6	131.6	4.0	172.8
病床利用率 (%)	73.0	71.3	1.7	67.9

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和2年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は36,359円で624円(1.7%)、外来収入は12,157円で1,172円(10.7%)上回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で13,323円(26.8%)、外来収入でも2,127円(14.9%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ4.0ポイント上回っている。(審査資料別表9参照)

### 3 費用

#### 費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和3年度		令和2年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,824,849,439	96.5	2,722,140,334	96.9	102,709,105	3.8
医業外費用	101,481,238	3.5	83,627,002	3.0	17,854,236	21.3
特別損失	2,139,987	0.1	3,476,011	0.1	△1,336,024	△38.4
合計	2,928,470,664	100.0	2,809,243,347	100.0	119,227,317	4.2

費用を前年度と比較してみると、特別損失で 1,336,024 円 (38.4%) 減少したが、医業費用で 102,709,105 円 (3.8%)、医業外費用で 17,854,236 円 (21.3%) 増加したことにより、費用合計で 119,227,317 円 (4.2%) 増加している。また、医業費用の増加については、給与費や材料費で、医業外については、雑損失の増加によるものである。(審査資料別表 10・11 参照)

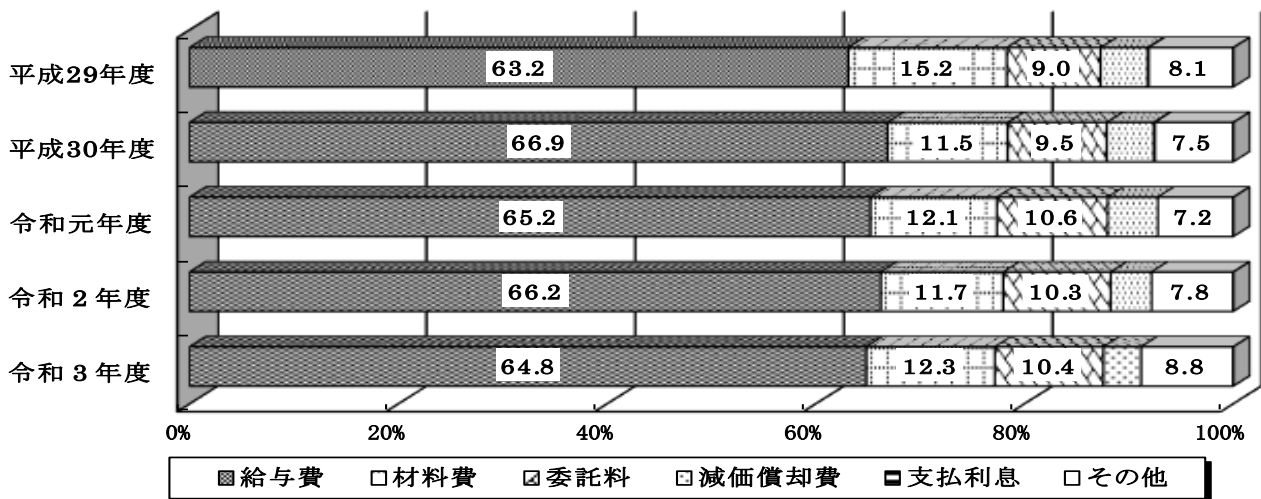
これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

#### 費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	令和3年度		令和2年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,898,459,814	64.8	1,859,898,477	66.2	38,561,337	2.1	
材料費	361,312,133	12.3	328,904,958	11.7	32,407,175	9.9	
委託料	305,980,733	10.4	290,711,302	10.3	15,269,431	5.3	
減価償却費	104,490,222	3.6	109,350,419	3.9	△4,860,197	△4.4	
支払利息	1,106,011	0.0	1,203,856	0.0	△97,845	△8.1	
その他	賃借料	22,478,010	0.8	22,022,722	0.8	455,288	2.1
	光熱水費	53,459,884	1.8	48,720,011	1.7	4,739,873	9.7
	修繕費・ 工事費	15,880,573	0.5	17,780,180	0.6	△1,899,607	△10.7
	その他	165,303,284	5.6	130,651,422	4.7	34,651,862	26.5
	計	257,121,751	8.8	219,174,335	7.8	37,947,416	17.3
合計	2,928,470,664	100.0	2,809,243,347	100.0	119,227,317	4.2	

費用構成別比較表



構成別で前年度より増加した主なものは、給与費で 38,561,337 円(2.1%)、材料費で 32,407,175 円(9.9%)、委託料で 15,269,431 円(5.3%) 等である。一方、減少した主なものは、減価償却費で 4,860,197 円(4.4%)、修繕費・工事費で 1,899,607 円(10.7%) 等である。

#### 4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率等を求めれば次表のとおりである。

区分	令和3年度	令和2年度	令和2年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	0.72	0.27	2.56	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.44	1.44	0.56	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	0.50	0.19	4.57	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本＝負債資本合計

・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2

・総資本利益率(経營業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)

・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)

・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 0.45 ポイント上回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率は変わらなかったが、医業収益利益率で 0.31 ポイント上回ったことに起因している。これは当年度経常利益が 8,580,290 円(187.3%)増加したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	令和3年度	令和2年度	令和2年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	92.77	89.43	86.02	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	100.45	100.16	102.13	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	100.38	100.06	102.15	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の令和2年度全国平均値である。  
比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率（総体的経営活動の能率を示す）では、年鑑指標と比較して、1.77ポイント下回っている。これは、医業収支比率（業務活動の能率を示す）で6.75ポイント上回っているが、経常収支比率（経常経営活動の能率を示す）で1.68ポイント下回っていることによるものである。

### III 財政状態

令和3年度末の財政状態は、審査資料別表13に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	令和3年度	令和2年度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	85,566,545	44,346,448	41,220,097
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△263,333,400	△134,203,280	△129,130,120
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	220,488,510	116,694,868	103,793,642
資金増加額 (1+2+3)	42,721,655	26,838,036	15,883,619
資金期首残高	45,430,540	18,592,504	26,838,036
資金期末残高	88,152,195	45,430,540	42,721,655

(注) 審査資料別表13参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より42,721,655円増加し88,152,195円となっている。

その内容を区分ごとにみると、業務活動によるキャッシュは、当年度純利益などが増加したことにより、前年度より41,220,097円増加し85,566,545円となっている。

投資活動によるキャッシュは、前年度より129,130,120円減少し△263,333,400円となっている。これは、建設改良費の器械備品購入等に伴う支出の増によるものである。

財務活動によるキャッシュは、企業債による収入の増加などにより、前年度より103,793,642円増加し220,488,510円となっている。



次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	102.96	94.26	88.10	190.24	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	41.57	47.30	50.45	33.19	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	98.99	102.29	104.74	84.23	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

- (注) ・流動比率（短期支払能力を示す） ・自己資本構成比率（経営の安全性を示す）  
 ・固定資産対長期資本比率（固定資産の調達状態を示す）

令和3年度の決算を前年度と比較すると、自己資本構成比率で5.73ポイント下がっているが、流動比率で8.7ポイント、固定資産対長期資本比率で3.3ポイントそれぞれ改善している。

#### IV 病院改革プラン数値目標との比較

「塩竈市立病院新改革プラン」の計画期間は平成28年度から平成32年度（令和2年度）までの5年間であったが、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により期間を延長し令和3年度の数値目標としている。財務に係る数値を中心にした平成29年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度		令和3年度	平成32年度 (令和2年度)	平成31年度 (令和元年度)	平成30年度	平成29年度
		決算数値	数値目標					
経常収支比率	(%)	決算数値	100.4	100.2	100.3	100.1	102.1	
		数値目標	100.4	100.4	100.0	100.0	101.1	
		差 額	0.0	△ 0.2	0.3	0.1	1.0	
医業収支比率	(%)	決算数値	92.8	89.4	90.3	83.7	89.7	
		数値目標	92.8	92.8	92.2	92.3	93.3	
		差 額	0.0	△ 3.4	△ 1.9	△ 8.6	△ 3.6	
職員給与費対 医業収益比率 (会計年度任用職員を除く)	(%)	決算数値	55.3	57.1	55.2	61.7	53.3	
		数値目標	53.6	53.6	53.8	54.0	51.6	
		差 額	1.7	3.5	1.4	7.7	1.7	
病床利用率	(%)	決算数値	73.0	71.3	75.9	81.1	85.4	
		数値目標	93.9	93.9	93.9	93.9	93.9	
		差 額	△ 20.9	△ 22.6	△ 18.0	△ 12.8	△ 8.5	
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	117.5	114.8	122.2	130.5	137.5	
		数値目標	130.0	151.3	151.3	151.3	151.3	
		差 額	△ 12.5	△ 36.5	△ 29.1	△ 20.8	△ 13.8	
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	240.4	226.9	243.9	240.0	236.2	
		数値目標	260.1	276.3	276.3	276.3	276.3	
		差 額	△ 19.7	△ 49.4	△ 32.4	△ 36.3	△ 40.1	
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	36,359	35,735	33,591	30,144	29,809	
		数値目標	35,029	29,105	29,105	29,105	29,105	
		差 額	1,330	6,630	4,486	1,039	704	
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	12,157	10,985	10,694	10,694	11,636	
		数値目標	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800	
		差 額	1,357	185	△ 106	△ 106	836	
救急患者数	(件)	決算数値	656	656	722	784	878	
		数値目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
		差 額	△ 344	△ 344	△ 278	△ 216	△ 122	
経常損益	(千円)	決算数値	13,162	4,582	7,801	3,220	59,983	
		数値目標	11,960	11,960	464	656	30,720	
		差 額	1,202	△ 7,378	7,337	2,564	29,263	
純利益	(千円)	決算数値	11,038	1,574	1,086	1,106	57,302	
		数値目標	11,960	11,960	464	656	30,720	
		差 額	△ 922	△ 10,386	622	450	26,582	
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値	456,287	494,674	475,280	679,005	544,000	
		数値目標	433,427	433,427	448,704	443,530	427,038	
		差 額	22,860	61,247	26,576	235,475	116,962	
不良債務比率	(%)	決算数値	-	-	-	-	-	
		数値目標	-	-	-	-	-	
		差 額	-	-	-	-	-	

塩竈市立病院新改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、経常収支比率、医業収支比率、入院患者1人1日当り診療単価、外来患者1人1日当たり診療単価及び経常損益は目標値を達成したが、その他は目標値に至っていない。

## V むすび

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は1,009人(2.4%)増の42,900人、外来患者数は3,025人(5.5%)増の58,169人となり、病床利用率は前年度の71.3%から1.7ポイント増の73.0%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で128,691,240円(4.6%)増の2,939,508,653円、総支出では119,227,317円(4.2%)増の2,928,470,664円で収支差引11,037,989円の純利益で決算され、前年度より9,463,823円増益となっている。

総収益の増の内訳は、医業外収益の他会計補助金46,665,000円(40.0%)、国庫補助金18,398,000円(68.9%)などが減となったが、医業収益の外来収益101,375,962円(16.7%)、入院収益62,862,879円(4.2%)などが増となったことによるものである。

総費用の増の内訳は、医業費用の退職負担金30,569,306円(20.6%)、建物減価償却費7,338,644円(13.8%)などで減となったが、入院・外来収益の増に伴う薬品費31,196,880円(15.1%)、給与費の手当等29,450,553円(6.2%)などが増になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では140,343,142円(75.2%)増の327,040,000円、総支出では128,624,032円(56.5%)増の356,190,230円となっており、収支差引の不足額29,150,230円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度損益勘定留保資金などで補てんし決算されている。総収入増の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出増の主な内訳は、病院情報システム構築などの建設改良費によるものである。

また、市立病院新改革プランは計画期間が平成28年度から平成32年度(令和2年度)までの5年間であったが、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、期間を延長し令和3年度の数値目標としている。改革プランの数値目標と実績を比較すると、経常収支比率、医業収支比率、入院及び外来患者1人1日当たり診療単価など目標を達成しており、入院・外来収益で前年度より増収となったことは一定程度評価出来るものである。

今後も、施設の方向性を含めた病院の在り方の整理、まだ、終息が見えない新型コロナウイルス感染症の影響や各医療機器の更新費用の増加など厳しい経営状況が続くと予想されるが、改革プランによる入院及び外来の患者数の増加等に取り組み、地域に必要とされる医療を継続していくため病院経営の健全化、安定運営に向けて努力されたい。